

ブルンジ月報（2018年8月）

主な出来事

【内政】

●ギハンガ州で軍用トラックへの襲撃があり、ブルンジ人兵士3人が殺害され、5人が負傷した。

【外政】

●カファンド国連ブルンジ特使は、国連安保理に、5月17日の国民投票以降、ブルンジの治安状況が改善していると報告した。

【経済】

- コーヒーの収穫量が昨年より大幅に増加した。
- ガソリンと軽油の価格が値上りした。
- ブジュンブラ市のバス代が5%値上がりした。
- 国際危機グループ（ICG）は、ブルンジの経済は、数年に及ぶ政治崩壊により深刻にダメージを受けていると報告した。

※特記のあるものを除きブルンジ・オンライン・メディア Iwacu の報道をとりまとめたもの。

【内政】

・武装集団による軍用トラック襲撃（6日：AFPナイロビ）

SOSメディア・ブルンジやメディア関係者によると、5日の夜、首都から15km程離れたギハンガ州で、軍用トラックへの襲撃があり、ブルンジ人兵士3人が殺害され、5人が負傷した。軍用トラックには、ルココ（Rukoko：首都ブルンジの東部ルイギ州）での任務に向かう12人の兵士が同乗していた。武装集団の正体は確認ができていない。同地域は、DRCコンゴ（民）と国境を接する湿地帯で、フツ国民解放軍（Hutu National Forces of Liberation Rebel）が活発な地域である。

【外政】

・国連ブルンジ特使の発言：「平和と安全保障の好機をとらえよ」（9日：The Province）

カファンド（Michel KAFANDO）国連ブルンジ特使は、9日、2020年の選挙に向けてのロードマップが8月3日に採択されたこと、また、ンクルンジザ大統領が2020年には大統領の座を退き、新大統領に就任する人物を全面的に支援するとしたコミットメントを称え、国連安保理に、5月17日の国民投票以降、治安状況が改善していると報告した。

【経済】

・コーヒー生産工場稼働期の延長要請（7月27日）

ルレマ（Déo Guide RUREMA）環境・農業・畜産大臣は、3月から7月25日までの2018/19年度コーヒー・シーズンに、予想を10万トン上回る12万6,171トンの収穫があったことに触れつつ、コーヒー生産工場の稼働を8月5日まで延長するよう伝えた。ブルンジでは、外貨収入の60%以上をコーヒー輸出のみに頼っている。2017/18年のコーヒー・シーズンの収穫は、期待された2万トンを大きく下回る1万5,864トンであった。

・ガソリンと軽油価格の値上げ（9日）

8日、マニラキザ（Côme MANIRAKIZA）エネルギー大臣は、ガソリンと軽油の値上げを発表した。1リットル当たり、ガソリンは2,250ブルンジ・フランで据え置き、軽油は2,350～2,400ブルンジ・フランとなる。灯油の価格は変わらない。同大臣は、燃料価格の値上げは国際市場の1バーレル当たりの価格の上昇に相応していると述べた。ンクルンジザ（Noël Nkulnziza）ブルンジ消費者庁報道官は、ブルンジ国民の生活環境に痛手であるとし、市場での食糧品や公共交通機関のチケットの値上げを伴うだろうと懸念した。

・ブジュンブラ市のバス代の値上げ（10日）

商業・交通・エネルギー・鉱業省によって9日に発表された燃料価格の値上げを受け、ブジュンブラ市のバス代が380ブルンジ・フランから400ブルンジ・フランに値上がりした。

・政治危機の影響を受けたブルンジ経済（31日）

31日、国際危機グループ（ICG）による報告書は、ブルンジの経済は、3年に及ぶ「悲惨な政治危機」により直撃を受けていると記した。2004年から2014年の間に年率4.2%であった経済成長率が、2015年には3.9%、2016年には0.6%に低下した。多くの医者が国を離れ、教師の給与はしばしば後払いとされ、大学教育では学生の奨学金が打ち切られる脅威の下にある。2017年、1,100万人以上の人口に対して医者は500人ほどであり、危機の後、100人ほどの医者が国を離れた。政府は、公務員や一般のブルンジ人に対して、国庫への寄付を強要する新しい税制と公的な「貢献」の義務を導入した。ICGは、EU加盟国に対して、NGOの能力強化によって国民への支援を増やすよう促した。

（了）